

# FLYING FISH

高知工科大学ニュースレター

62

2015 SPRING



**やる気フツフツ。**

**自分で決めてタノシクやりきる!**

**by TAKASHI SUZUKI**

**Devote yourself to an idea.  
And go make it happen !**



# 自己決定できるチカラを育み、人も地域も元気に!

鈴木 高志 准教授 教育心理学 / 教職課程担当



## 自ら道を拓いた経験を糧に「自己決定理論」の道へ

自らの意志で決定し、納得して何かをやる場合と、誰かにやらされる場合では、気持ちの入り方はまったく違う。「一番充実感があって、頑張れるのは自分でそれを決めるとき。その楽しさを学生さん自身が体験し、未来の生徒たちに伝えてほしい」と語る鈴木高志先生。2012年10月から本学で教職課程の心理系科目を担当している。教育を行う上で重要な“やる気を引き出す”ための「動機づけ」や、そこからさらに発展し、自ら決めて行動することが強い動機づけを生み出すことができる「自己決定理論」を中心とした教育心理学が専門だ。周りにどのような環境があって、本人の中にどんな思いがあれば、人は何かを決めて自分の人生をよりよく形作っていきけるのか。よき自己決定ができるメカニズムについて研究を行ってきた。鈴木先生のここまでの道のりは、決して平坦なものではなかった。さまざまな迷いの中で、自ら決めたことを実現する喜びを体感したからこそ、「自己決定理論」の可能性を追求したいとの思いに至ったという。大学時代は社会学を専攻し、金融機関に就職したが、3年弱で退職する。「大学を卒業する時にいろいろ迷ってしまって、人は何のために生きるのかって考えたときに、実はうまい答えが見つからなかったんです。

でもとりあえず就職しないとイケない。それである程度興味のある業界に就職したんですが、会社の中でゼネラリストとして働く中で、私はやっぱりスペシャリストとして生きたいという思いが芽生えました」

その後は何か専門性を身につけようと、さまざまなチャレンジを試みるがどれも失敗。食いつめて将来が見えなくなり、生活のためと塾の先生を始めたことが、大きな転機となった。「塾の仕事は想像以上におもしろくて。その時に出会った子どもたちがとても私のことを慕ってくれたんですね。いろいろ失敗が続いていたので、自分は生きてよかったんだと思ってくらいです。こんな私を先生、先生と言ってくれるし、自分が頑張ると子どもたちが応援してくれる。思っていた以上に、自分はこういうことが好きなんだなと思ったんです」

子どもたちに勉強を教えながら、子どもたちの様子をよく見て励まし、元気づけてあげたい。そのための技能を磨こうと決意し、心理学の勉強を始め、筑波大学大学院に進学。平日の昼は大学院で学び、夜や休日は塾の講師として働くという生活を送った。「一生をかけてやっていきたいことを子どもたちが与えてくれて、自ら大学院進学という道を拓いたことが、自分自身の根源となりました。迷いなく本当にやりたいことをしながら前に進めていることは、幸せだと思います」

現在は高知県のスクールカウンセラーと



鈴木先生は学生と話すことが大好き。会話中は表情をクルクルと変えて、相手が話しやすい雰囲気をつくる。なるべくたくさん学生と話したいのは、学生にとって“先生が見てくれているという安心感”が、思わぬ力を発揮する原動力になることがあるから。そうした経験を自分が教師になった時に生かしてほしいという。

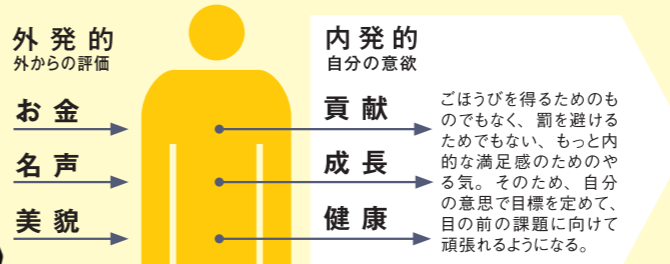
「授業ではジョークを飛ばして場を盛り上げる面白い先生ですが、面と向かって話をすると、学生のことをよく考えてくれているのがわかります」と学生の一人は話す。やさしさの中にも厳しさがあがり、悩んでいるときはそっと背中を押してくれる。学生にとってはこの上なく頼もしい存在なのだ。



## 「自己決定理論」の示す人生の目標とは?

※一番モチベーションがアップするのは、自分で決断したときであるという理論

人の行動の目標や動機は、「外発的なもの」と「内発的なもの」の2つに分けられる。



やる気フツフツ  
「内発的な人生目標」を持つことが、自分にとって真に必要なものをめざす人生につながる!

「自ら学ぶ意欲の心理学」の著者・櫻井茂男氏は鈴木先生の大学院時代の恩師。



## 先生オススメBOOK

「モチベーションをまなぶ12の理論」  
鹿毛雅治編 / 金剛出版  
「自ら学ぶ意欲の心理学—キャリア発達視点を加えて」  
櫻井茂男著 / 有斐閣  
「人を伸ばす力—内発と自律のすすめ」  
エドワード・L・デシ、リチャード・フラスト著  
桜井茂男訳 / 新曜社  
「完全なる人間—魂のめざすもの」  
アブラハム・H・マズロー著、上田吉一訳 / 誠信書房

とは言うものの、お金がなければ、夢を追うことすら難しいのが現実だ。そこで、鈴木先生は経済的に貧しく追いつめられている子どもたちが、どんな思いを抱えているのかを知っていきたくて考えている。「今後日本経済はさらに厳しくなり、夢を見失う子どもがかなり出てきてもいいかもしれない。どうやってみんなを笑顔にできるのかを考えたときに、やっぱり教育が鍵になる。教育を通して子どもたちに希望を与えていきたいですね。ただ頑張れというのは好きじゃないので、一緒に頑張っていきたいと思います」

あくまで謙虚な姿勢で、子どもたちと同じ目線に立ち、その心に寄り添っていく。そんな鈴木先生のやさしさが、一つひとつの言葉に表れている。

## 高知から発信する子どもを元気にする仕組み

高知県は全国平均に比べて過疎化や少子化が10年早く進行していると言われる、いわば課題先進県。子どもの数が減り、学校の統廃合が相次げば、小中学校の9年間を同じメンバーで過ごさざるを得なくなったり、学校間距離が長くなり他校との交流が難しくなるなどの影響が生じる可能性がある。その一方、アットホームな環境によって一生の幼なじみができたり、地域に強い愛着を持つことができるといったよい面も考えられる。鈴木先生はこうした少子化におけるメリットやデメリットを子どもたちの声を元にとりまとめ、少子化時代における教育のあり方をいち早く提示していきたくてという。「おもしろいことに、内発的な目標の中で自己成長と社会や周りの人への貢献は連動しているんです。つまり周りの人に何が出来るかを考えれば、自分自身が成長できると、おそらく人は皆信じているんですね。だから、お

互いに困れば困るほど、周りの人に対して何かができるチャンスが増えたと前向きに捉えて、子ども同士が気軽に助けを求めたり、声掛けができるような仕組みをつくっていきたくて。そして、将来的には高知だけでなく日本全体の子どものたちを守り、励まし、元気にすることに繋がりたいですね」

高知で教員を育てるといふことの先にあるのは、地域を元気にしたいという思い。今後は香美市を中心に、県内の小中学校の先生たちと連携しながら、取り組みを進めていく。

## 「人が好き」という気持ちが出発点

いつもニコニコ笑みを絶やさず、学生に会うと決まって「大丈夫?」「元気?」と声を掛ける。フレンドリーな先生として多くの学生から慕われているが、本来は恥ずかしがりやで、目立つことは苦手。春風のように、あたたかな空気を運び込み、人々を笑顔にしたかと思えば、役割を終るといつの間にかいなくなっている。そんな影で人々を支えるような存在でありたいという。もちろん「見守り続けること」は、教員の大事な役割の一つだが、最終的な目標は学生が教員である自分の存在を忘れて、一人でやっていけるようになること。自分の力を最大限に発揮し、一人でも多く教員になってほしい。



教職課程の学生たちから、感謝の気持ちを込めて贈られた記念品とともに。



Professor's personality  
神社を巡ることが好きで、考え事をしたい時や気持ちをリセットしたい時には、決めて足を運ぶという。高知県内では、長宗我部元親公が初陣祈願したとされる「若宮八幡宮」が大のお気に入り。華美な装飾は一切ない、簡素な造りに心が落ち着くのか、もう10回ほど訪れているのに、まったく飽きることはないという。

GOOD LUCK!  
退任  
対談常に進化し、  
時代の先を行け。

開学準備から携わり、二代目学長として本学のシステムづくりに尽力してきた岡村甫理事長と、時代の変化に合わせてさまざまな改革を実現してきた佐久間健人学長。今年度でそろって退任するお二人に、今後も継承してほしい高知工科大学らしさや本学への思いについて、語ってもらいました。

世界を見据えた「大きな志」を  
持ち続けてほしい。

**岡村** 「既存の大学ではできなかったことを実現しよう」という思いからスタートし、世界標準の大学をめざしてきました。そのために最も大事なことは、学長のマネジメント力です。初代学長の末松先生に始まり、佐久間学長、来年度からは磯部先生という世界レベルのトップマネジメントができる方に来ていただけたことが、本学の一番の特徴です。これは誇れることだと思いますね。

**佐久間** 適切なリーダーシップを発揮できる環境にあることが本学の特徴だと思いますが、発揮する人が世の中を知らなかったら間違った方向に行ってしまう。世界の潮流を理解した上で、大学がどうあるべきか、この大学で何がやれるの

かを考え続けたいといけません。これからも大きな志を忘れないでほしいですね。

**岡村** 本学は教育を重視し、「日本人が育つ大学でありたい」という思いを開学以来引き継いできました。そのために全科目選択制やクォータ制といった先進的なシステムをつくってきましたが、今では周りが追いついてきた。そこで、佐久間学長は公立大学法人化をはじめ、マネジメント学部の設置や課外活動への支援を行うことで多様性を付与し、発展できる形をつくってくださった。それは常に将来を見据えて何をすべきかを考え、形にしていって佐久間学長でなければできないことだったと思っています。

**佐久間** 学長のリーダーシップが発揮しやすい環境の大学だからこそ、できたことだと思います。これからの時代、従来の工学の殻に閉じこもっていたら、これだけたくさんの学生をしかるべき場所に送り込むことが難しくなるんじゃないかと思っています。経営や経済、マネジメントを抜きにして工学だけでやるのでは十分とは言えません。もっと社会を広く見るために分野を広げた方が、学生さんのためにもなると考えました。

**岡村** 佐久間学長は広く深く物事を考え、慎重に手を打っていく方ですが、私は現状のシステム

のどこが悪いのかを理解し、改良を重ねるのが特徴です。その一つとして、助手制度を改良し、新たに助手を雇わない代わりに、定年退職後の第二の人生を若い人たちの教育に尽くしたいという人を招聘する教育講師制度をつくりました。教育講師の先生には、大学1年生を生徒から学生に、教わるから学ぶへ変えてほしいとお願いしたんです。

**佐久間** 教育講師制度は非常に評判がいいですよ。私は勝負事には向かないんです。絶対に東大野球部で17勝どころか1勝もできません、私は(笑)。勝負事っていろんなことを考え過ぎたら負けるんです。岡村理事長のすごいところは、ギリギリのところでき抜けるパワーですね。

「改革を続ける」ことが、  
存在価値につながる。

**岡村** 大学のコンセプトを表現したキャンパスであることも本学の特徴ですね。

**佐久間** 私が岡村理事長に誘われて高知工科大学に来たのは、キャンパスの美しさが一つの要因でした。非常に魅力的でした。感動する学生もいっぱいいますよ。

**岡村** 本当の意味で学生を大事にするということが、キャンパスにも表れています。それが本学の特徴であり、今後もぜひ続けてほしいことなんです。

**佐久間** 今はちょっとおとなしい学生が多くな。学生には燃えてほしいですね、もっと。部活動やサークル活動は人との付き合い方や組織のマネジメントなど、いろんなことを学ぶ最高のシチュエーションです。勉強以外で身につく人間性や社会性はその後の人生で生きてくる。だから、学生が運動部だけでなく、サークル活動にも熱心に取り組めるよう、もっと大胆に大学のシステムを変えてほしいですね。

**岡村** 「常に進化する大学」というのが本学の切り口です。そうしないと、10年経ったらもう古くなる。他大学も本学の取り組みを追従するようになったので、我々は常に進化していかない限り、存在価値がないんです。それは人も同じで、教職員一人ひとりが満足してしまったら終わりなんです。

**佐久間** その通りです。今の高知工科大学には継承してほしいと思う良いところはたくさんありますが、改善すべき点もそれ以上にたくさんあります。過去は素晴らしかったと言えば、そこで終わりなんです。“過去を凌ぐ”という意気込みで、常に進化する大学であってほしいと思います。

東京大学教授などを経て、2005年12月より高知工科大学副学長、2008年4月より学長を務める。マネジメント学部の設置に始まり、工学部再編、公立大学法人化、地域連携機構の設置など、変化する時代の中で、高知工科大学の将来のあり方を深く考え、数々の革新的な改革を成し遂げてきた。課外活動の支援にも力を入れ、卓球部を中心に成果をあげている。

佐久間  
健人  
学長岡村  
甫  
理事長

高知県出身。東京大学工学部長などを経て、1999年より高知工科大学副学長、2001～2007年まで学長を務める。2009年理事長に就任。学生時代は野球部のエースとして活躍。当時記録した17勝は、現在も東大野球部の最多勝利投手の記録として残っている。1992年より「高知県工科系大学構想検討委員会」に参加し、高知工科大学の設立にも尽力してきた。



# KUT Quarterly NEWS

## 活動報告 P-S(ピース) 自ら一步踏み出すがモットー!



学生団体P-S(ピース: progress step)は、平成20年に設立されました。現在19名の学生たちが、地域の方々や団体(企業)との交流と、地域貢献、地域活性化を目的に、主に地域のイベントへの参加や大学内と大学周辺の清掃活動、近隣の小中学校での読み聞かせ等を行っています。今年度は、ボランティア活動24件、読み聞かせを60回行いました。『「ふらっと中町」でのイベント補助が初めての活動でした。元気に走りまわると子どもたちに驚きながらも、子どもたちとのふれあいが楽しく、自分も元気をもらっています』と中井くん。沼くんは、「初めて行った老人ホームの清掃ボランティアでは、臨機応変に対応する大切さを学びました。ハロウィンイベントで、急遽、帽子を作る事になり、出来上がってみるとサイズが小さくて頭に入らなかった(笑)など、失敗もあります」。竹内くんは「初めての読み聞かせに大学近隣の片地小学校に行った時、恥ずかしさと緊張でびびって震えました。その後、読み聞かせの練習を積み、寮生に聞いてもらったり、抑揚のつけ方を工夫したり、回数を重ねるうちに、だんだんと楽しくなりました」と振り返ります。

新入生にむけて、「自分から一步進む団体です。大学に入って何か始めたいと思っている人は、一度P-Sに入ってみてください。いろいろな経験や交友を広げて大学生活を充実させましょう!」と呼びかけながら、4月から「ゴミ拾いイベント」の実施や読み聞かせの拡大など、今後も地域に根づいた活動を展開していきます。



▶ P-Sの活動を漢字1字で表すと?

**得/** 活動に参加することによって、自分が成長できる機会が得られます。  
安光穂高くん(情報学群2年) ※学生代表



**瞬/** 活動前日は緊張しますが、参加者の反応の瞬一瞬がすごく嬉しい。地域の方々とのふれあいが楽しいです。  
清水優子さん(マネジメント学部2年)



**広/** 活動を通じて、人との繋がりが、広がりを強く感じています。  
西田昂世くん(情報学群2年)



**関/** 子供からお年寄り、イベントを企画する方など、様々な方々と関わり、いろいろな話が聞けて、勉強になります。  
竹内智也くん(環境理工学群2年)



**間/** 暇な時間を使って、自由に参加ができます。イベント参加者の目線に立って、話をしたりすることを心掛けています。  
中井祐貴くん(情報学群1年) ※平成27年度学生代表



**尽/** 掃除が苦手だったけど、P-Sの活動をしているうちにきれい好きになりました。  
沼尚樹くん(情報学群1年)



おめでとうございます



## 平成26年度卒業式・学位授与式

地元のみなさんからの祝福に包まれ、新たな旅立ち

3月20日(金)、平成26年度卒業式・学位授与式が執り行われ、学士課程463名、大学院修士課程113名、博士後期課程10名の計586名の卒業生が新たな一步を踏み出しました。

佐久間学長から「日本の社会が抱えるさまざまな課題の克服には、おそらく皆さんのような若い方々の尽力が不可欠でしょう。卒業生の方々には、高知工科大学で身に付けた科学技術に関する能力やマネジメント力などを通じて日本の将来に貢献して下さることを期待します」とはなむけの言葉が送られ、卒業生・修了生代表の朝日康介さん(マネジメント学部)からは、「高知工科大学で得た知識や経験を生かし、それぞれの夢を叶えることで、支えてくれたすべての人に恩返しをしたいと考えています」と謝辞が述べられました。

また、式典では学生への各種表彰も行われました。

式典終了後は、在学生、後援会、香美市商工会の共催による卒業記念イベント「えん」が開催されました。郷土料理等が振る舞われ、ステージイベントが進行中、卒業生たちはお世話になった方々や友人、そしてキャンパスに別れを惜しんでいました。

Happy Graduation!



## 各賞が決定! 大学でのさまざまな努力と功績を表彰する 平成26年度 学生表彰

### 末松賞

システム工学群	佐藤 博則
システム工学群	長谷川 悠
システム工学群	山下 崇仁
環境理工学群	小松 真也
情報学群	宮崎 玲奈
マネジメント学部	玉井 亮子

初代学長・末松安晴氏のドイツのエデュワード・ライン賞受賞を記念し、創設された賞で、各学群・学部を代表する者に与えられます。

### 岡村賞

マネジメント学部 松山 明花(女子卓球部)  
入学時から卒業年度までの間、課外活動に取り組み、卓越した実績を挙げるとともに、優秀な学業成績を修めた者に与えられます。

### 佐久間賞

修士課程	物質生命システム工学コース	加藤 陸
	知能機械システム工学コース	金井 啓太
	知能機械システム工学コース	井上 皓久
	電子・光システム工学コース	森岡 俊樹
	情報システム工学コース	橋田 佳昌
	情報システム工学コース	福地 早希
	社会システム工学コース	高橋 勇太

学業成績が学年の各コース上位であり、学術集会において優れた研究成果を発表している者に与えられます。

### 博士後期課程

基盤工学コース JIANG Jingxin  
研究成果が国際的に高く評価されており、国際的に評価の高い学術誌に本人を筆頭著者とする論文が採録又は採録が決定されている者に与えられます。

## 廣井勇博士の足跡をたどる

11月28日(金)~30日(日)、平成25年度廣井勇賞を受賞した本学の学生5名が参加し、廣井博士の足跡をたどる北海道研修を行いました。

高知県佐川町出身で日本の港湾工学の礎を築いた博士の名を冠した「廣井勇賞」は同級生や教職員から学友を慈しみ熱き向学心をそなえ、リーダーとしての志を持つ者として、推挙された学士課程3年生に与えられます。

同賞の副賞であるこの研修で、国土交通省小樽港湾事務所を訪問。博士の功績や築港に関する講義、港湾業務艇「ひまわり」に乗船して博士が携わった小樽港北防波堤を見学し、建設経緯を学びました。100年を経て、今なおその役割を果す防波堤を間近に見ながら、博士の偉大さに想いを馳せ、それぞれが大きな刺激を受けました。

## ぞいてみんかえ物部川を開催!

2月22日(日)、物部川に感謝する日~「ぞいてみんかえ物部川」(主催/物部川に感謝する実行委員会、物部川21世紀の森と水の会、共催/高知工科大学)が本学講堂で開催され、物部川流域の皆さん、本学学生など約400名が参加しました。

「学」「食」「楽」の3部構成のプログラムで、「学」の部では、農林業と漁業関係者、香美市の香長小と片地小の小学生がお話とクイズ形式で流域の保全を訴えました。昼休みは「食」の部としてシカ肉カレーやシカ焼き肉を食べながら、自然の恵みへの感謝とシカの食害と濁水など物部川の抱える問題を認識。「楽」の部で、渡邊法美教授(マネジメント学部)の脚本によるミュージカル「いっしょに生きよう物部川」を上演。近隣の

小学生と本学学生、実行委のメンバーが出演し、シカが増え、人が住めなくなった50年後の物部川の姿を夢を見た主人公が、川の主のカツパの力を借りて、川が豊かだった50年前にタイムスリップし、過去・現在・未来を通じて、自然と人間の共生を考える大切さを参加者に訴えました。また、橋詰南国市長、清藤香南市長、法光院香美市長の流域の3市長から物部川への想いが語られ、この1日をおして問題解決に向けての取り組みを考える機会になりました。



## 中国・安徽大学でシンポジウムを開催

11月15日(土)~16日(日)、本学の交流協定校である中国の安徽大学にて、同大学を含む安徽省の5大学(他に、安徽理工大学、安徽建築大学、安徽農業大学、合肥工業大学)と本学の学術シンポジウム「China-Japan Innovation Forum on New Energy Utilization and Sustainable Development(中日新能源利用与持続発展創新論壇)」が開かれました。高知県・安徽省友好提携20周年事業の一環で、約110名が参加しました。

開会式で安徽大学の Cheng Hua 学長、岩城孝章高知県副知事、佐久間健人学長が、高知県と安徽省の交流の歴史を振り返りながら、日中両国の友好親善と、学術分野での発展を誓い合いました。

つづく研究発表では「計算機、情報」、「電子、物理、材料」、「資源環境、生物医薬、化学」、「社会学、管理学、経済学」の4分野にわたり、学生らが研究成果等のプレゼンテーションを行ないました。16日には、本学の博士後期課程特待生制度(SSP)の説明会や、本学教授の研究についてのプレゼンテーション、安徽省教育厅の主催による合肥工業大学と合肥学院の視察や日本語学科の学生らと交流会が催されるなど、充実した内容となりました。



# KUT Quarterly NEWS

## 高知の豊かな森林が再生可能エネルギーへ!

1月27日(火)、「株式会社グリーン・エネルギー研究所」の宿毛バイオマス発電所と木質ペレット製造所の竣工式に、県や地元の林業関係者ら約120名が出席しました。



この研究所は、永野正展教授(地域連携機構)、那須清吾教授(マネジメント学部)の研究チームが中心となり設立。エネルギーを地産地消し、「雇用創出とエネルギー移入による県外への支出削減」、「再生可能資源を活用した地球温暖化防止」、「環境を基軸とする新しい地域モデルづくり」などを目的に、木質バイオマス発電所と木質ペレット製造所を運営します。

同研究所社長・那須教授は、「私たちの生活にエネルギーは不可欠です。高知県の豊かな森林資源を再生可能エネルギーとして供給

する事業を展開し、環境・エネルギー問題だけでなく、林業や関連産業の振興にも貢献したいです。高知県発のグリーンエネルギー供給企業として、地域の活性化と発展を支える拠点を目指します」と決意を新たにしました。

### 【木質バイオマス発電事業】

間伐材や林地残材、製材端材や樹皮など、これまで利用されなかった木材を燃やし、発生した蒸気でタービンを回して発電します。燃焼時に発生するCO<sub>2</sub>は、木の成長時に吸引されており(カーボンニュートラル)、地球温暖化防止に有効かつ、人間が作り出せる再生産可能なクリーンエネルギー事業として期待されています。

### 【木質ペレット燃料事業】

県内の木質ペレット利用者の需要を県内でまかなう「地産地消」を進めます。木質ペレットは、木材を粉砕した「おが粉」を接着剤など化学物質を一切使用せず、乾燥・圧縮した固形燃料のことで燃焼効率に優れています。保管しやすく、輸送時もCO<sub>2</sub>排出量削減ができるエコ燃料として注目が高まっています。また、吸湿性・消臭性が着目され、猫砂(ペットのトイレ用)など燃料以外にも使われています。

## 日本から、トビタテ若者!

箭野皓大くん(環境理工学群3年/渡邊高志研究室)が「トビタテ!留学 JAPAN」に合格しました。

文部科学省は、海外留学をはじめとして新しいチャレンジに自ら一歩を踏み出す意欲ある日本の若者の後押しを目的に、留学促進キャンペーン「トビタテ!留学 JAPAN」を開始しました。これは、政府のみならず、各分野で活躍する方々や民間企業から支援や寄附など社会全体で海外留学促進に取り組み、官民協働で世界で活躍できるグローバル人材を育成します。

箭野くんが申請したコースは、270名の応募の中から119名が採用された自然科学系、複合・融合系人材コース。箭野くんは事前研修に参加し、2015年8月~2016年1月の半年間、ネパール・ポカラ大学に留学し、授業の聴講だけでなく、ヒマラヤ地域でのフィールドワーク等を行います。

## 白熱サミット! 地域と大学のあり方とは!?

1月24日(土)、地域の交流施設と地域課題解決に取り組む大学生達がお互いの連携強化を考える「地域と学生が繋がるサミット in ほとと平山」が開催されました。

このサミットは、「地域共生概論 2」という講義の一環として実施されたもので、受講する大学の学生だけでなく、県内3大学からも地域活性化活動に取り組む学生や、地域交流施設関係者ら約60名が活動報告やトークセッション、グループディスカッションを行いました。

地域の交流施設代表から学生に期待する「行動力や実行力」、「地元への刺激としての交わり力」について、学生側から「学生数が多くマンパワーがある」、「大学で学んだ専門知識が活かせる」などの自らの強みを述べながら、熱く議論しました。

「ココイコ!プロジェクト」の中村真也くん(情報学群3年)と島田憲吾くん(情報学群1年)は「地域の方のニーズや考え方が分かりました」、「地域の方の意見が聞けて良かった、今後も自分達の活動を頑張っていきたいです」。他にも鈴木和基くん(マネジメント学部2年)が「機会があればこのようなイベントの企画などを行いたい」と語っていました。

【地域共生概論2/渡邊法美教授担当】

高知県の自然環境保全や、産業を元気にするプロジェクトを調査・立案・実施しながら実践的にプロジェクトマネジメントを学べる講義。



KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します!

## 最先端技術を積極アピール!



1月28日(水)~30日(金)の3日間、東京ビッグサイトにて「新機能性材料展」が開催され、山本哲也教授(総合研究所)が出展しました。「多結晶酸化亜鉛系透明導電膜におけるキャリア移動度制御」の基礎編として、スパッタリング法による薄膜成長技術の制御法と、その応用として「高速高感度水素センサー」「抵光学損失赤外波長プラズモニクス」について、最新の研究成果を紹介しました。

## 祝・教員採用試験に17名が合格!

本年度実施された教員採用試験(私学を含む)において、本学学生22名が受験し、半数以上の17名が平成27年度から正規採用となりました。本学では、教員志望者のための教育環境を整備してサポートしています。なお、本年度末教員免許状取得者は44名の予定です。

## 地域にとびこみ切磋琢磨!

2月17日(火)、「地域交流推進委員会」が主催し、第2回活動成果発表会を行いました。県内各地域で活動する学生団体が、それぞれの活動風景を映した写真の投影や、クイズを出題したりと、工夫して1年間の活動成果を発表し、発表会後の交流会で、地域の方々や学生同士で交流を深めました。



### 【農業団体あーく】

代表 長谷達弥くん(マネジメント学部2年): 大学生らしくない面白いことをしたいという思いで活動を行っています。自分達の活動を知ってもらえるように、これからも様々なイベントに積極的に参加していきます。

### 【香美市を盛り上げ隊】

代表 山崎禎弥くん(情報学群3年): この会で、自分自身の理念や団体の活動を周知し、他の団体の活動を知り横のつながりが出来たのも良かったです。これからも、香美市民や香美市に関わる人が香美市の自然、文化を通じて幸せを実感できるように、社会福祉や子どもの文化発信など幅広い活動を続けていきます。

## 気候変動に適応! 水資源を守るには!

1月25日(日)、高知市文化プラザさるぼとてと本学と東京大学が「気候変動と適応策に関するシンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムで、近年の気候変動による吉野川流域の水資源の影響について、研究成果を報告し、地域住民が納得する水資源政策を見出す一助となることを目的として、水不足が多発し、洪水の危険度も高い四国各県で開かれました。

環境に関心を持つ皆さまにご参加いただき、鏡川でも同様の取り組みを熱望する意見をはじめ、活発な意見交換が行われました。

## 英語教員ワークショップ



2月14日(土)、本学の地域教育支援センター主催で英語教員のためのワークショップが高知県立岡豊高等学校で開催されました。

『英語授業の「幹」をつくる本』で、ふつうの公立中を日本一にした北原延晃先生(東京都港区立赤坂中学校主任教諭)をお招きし、誰にでも、すぐに始められる授業実践を中学・高校の英語教員だけでなく、教育行政、塾講師など40名を超える方々が生徒役となって参加しました。

Can-do listの使い方、ピクチャーカードを使ったQ&A、Oral introduction、語彙の導入音読など、矢継ぎ早に繰り出される問いかけに真剣に答えながら、本年度末で定年退職される北原先生の集大成となる貴重なワークショップを体験しました。

『生徒の立場で授業を受けてみて、「あんな発問があったのか」「こんな切り口で言語材料を見るのか」など多く発見があったと思います。皆さんに、自分にとってどんな意味があったのか?できることは何か?をじっくりと振り返って、4月に備えていただければ幸いです」と長崎政浩教授(共通教育教室・地域教育支援センター長)が呼びかけ、盛会のうちに終了しました。

## またまた快挙! 「虹の学校」



渡辺菊真准教授(システム工学群)の建築作品『虹の学校 School Floating in the Sky』が、1999年にスタートした世界の建築と美術を発信するオンラインマガジン「design boom」の、300万人の読者が選ぶ2014年建築トップ10に選出され、12月号の表紙を飾りました。<http://www.designboom.com/architecture/top-10-reader-submissions-2014-architecture/>

## 地域の自主防災に どんどん若者の力を!

1月30日(金)、「第2回対話と実行座談会」が香美市プラザ八王子で開催され、本学の防災ボランティア団体 KPAD から代表の鈴木和基くん(マネジメント学部2年生)が意見交換会に出席しました。

当座談会は、高知県知事と県民の意見交換の場として高知県が主催し、今回は「自主防災組織の活性化と広がりについて」をテーマに実施されました。尾崎知事をはじめ、香美市各地区の自主防災組織のメンバーが参加。自主防災組織が抱える課題解決のためのアイデアや、大学生の力を活かした地域の防災力強化の取り組み等が次々と紹介されました。

鈴木くんは「大学生の若い力を活用し、地域の防災活動活性化につなげていきたい。何か協力できることがあれば、積極的に KPAD に声をかけて欲しい」と呼びかけ、今後の取り組み強化に意欲を燃やしていました。

## WIND BRASS 旅立ちの定期演奏会

3月1日(日)、吹奏楽部「WIND BRASS」による第16回定期演奏会「卒業コンサート」が、本学講堂にて開催されました。

地域住民や同部 OB など約150名にお越しいただきました。今春卒業する学生たちの集大成として多彩な3部構成で、総勢56名のクラシックの演奏やフルート&ピアノ演奏、クラリネット8重奏、混成12重奏などのアンサンブルステージと、振付けを加えたポップスステージなどで観客を魅了、「先輩にとって最高の思い出に!」「皆様に楽しんでいただけるように!」と部員一同心をこめた演奏会でした。



## 就職戦線スタート 大学からの援護射撃

12月3日(水)、本学にて220社300名を超える企業の採用担当の皆さまにご参加いただき、「大学説明会・情報交換会」を開催しました。

各学群・学部の会場では、来場者と本学教職員との間で、企業の求める人材像や学生の研究内容、2016年3月の新卒生から大幅に変更された採用・就活スケジュールについて、幅広く活発な意見が交換されました。

本学の教育と就職支援の取り組みを紹介するだけでなく、本学に対するご意見やご要望をお聞きする貴重な交流の場となりました。



## コーヒーの香りと JAZZ



2月16日(月)、香美市の喫茶店「一滴」にて、本学の JAZZ 研究会第2回定期演奏会が開催されました。

あいにくの雨の中、幅広い年齢層のお客様で満員となった店内で卒業公演も兼ねた演奏会が開催。静かに目を閉じて、または手拍子や体を揺すりながら、思い思いに Jazz を楽しんでいただき、アンコールが2回も起こるほど演者とお客様が一体となった充実のライブになりました。

# KUT Quarterly NEWS

KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します！

## 味にドキドキ... 未利用植物クッキング

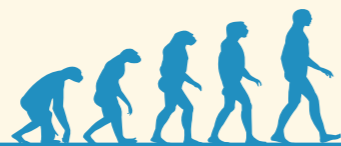
12月14日(日)、旧佐岡小学校にて本学「商品開発部」と渡邊高志教授(環境理工学群)の研究室所属の学生が高知の未利用植物を使った料理を作り、佐岡地区の皆さんを招待して試食会を行いました。

これは、「郷土の植物再発見-食文化観光の開拓-」をテーマに、植物資源戦略について理解を深める機会として、昨年度も県内各地で開催された『食のキャラバン』の番外編です。高知市の料理店「草や」の和田典也さんにご指導いただき、ふだんは食材として使われないオトコエシやカスマグサなどの植物が、美味しい料理に変貌する様子に学生達は驚いていました。オトコエシの菜飯にカスマグサのみそ汁、オドリコソウと豚肉の炒め物に、ガマズミとアキグミのゼリーなど計7品の多彩なメニューは試食した地元の方に大変好評でした。



## ネ アンデルタールから サピエンス交替にせまる

3月7日(土)、8日(日)、高知市の高知会館にて、公開講演会「ネアンデルタール人と新人サピエンスの交替劇」が開催されました。赤澤威教授(総合研究所)が代表をつとめる研究プロジェクト「ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相:学習能力の進化に基づく実証的研究」(文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究)は、今年度で最終年度を迎えます。その集大成として、この講演会で、考古学、文化人類学、理論生物学、環境科学、化石工学、脳科学の6チーム・国内外85名(2014年度)で取り組んできた成果を発表。国内の研究者だけでなく一般の方も含む、約150名にご来場いただき、テーマに関する関心の高さがうかがえました。



## 宇宙からの高知の アグリ“ウォッチング”

2月11日(水)、高知県教育委員会が主催する農林業体験インターンシップ「アグリウォッチング」に参加した高知県内の高校生23名に対し、高木方隆教授(システム工学群)が「人工衛星と地理情報システムでみる高知の自然とその活用」について講演しました。「アグリウォッチング」とは、高校生が先進農家や企業、大学などの現場をたずね、最新の知識や技術に触れることで、農林業に興味を持つ将来の担い手を育てる場です。今回は、人工衛星からわかる日本の宇宙技術のレベルの高さや、高木教授の海外現地調査での体験談を通して感じた人間の営みと自然との共存など、幅広い話題を提供。最後にアンパンマンの歌詞から「目標を持って生きることの大切さ」を未来ある高校生に伝えました。



## 地元を売り込む 高校生の商品開発

1月10日(土)、本学講堂で「高等学校産業教育生徒研究発表会」が開催されました。高知県教育委員会が、産業について学ぶ高校生を対象に、生徒たちの自主的な研究活動を促すため、研究成果発表の場として毎年開催し、今年度で59回目となりました。県内の13校14チームが、それぞれの取り組みを10分間プレゼンテーション。本学学長賞を受賞した山田高等学校の生徒達は、香美市特産物の生姜を利用したカステラやパン、饅頭などを商品開発し、イベントや量販店等で実際に販売するまでの過程を、写真を交えて報告。「商品を実際に販売するまでに、多くの人の協力が必要で人とのつながりが大切だと学びました」と感想を述べました。



## 野本助教が 講演奨励賞を受賞

9月19日(金)に北海道大学札幌キャンパスで開催された「第75回応用物理学会秋期学術講演会」において、野本淳一助教(総合研究所)が、講演奨励賞を受賞しました。同賞は、応用物理学の発展に貢献しうる優秀な一般講演論文を発表した33歳以下の若手研究者を対象に講演件数の1%以内を限度に、受賞者が選出され、その功績をたたえ授与されます。3月11日(水)には東海大学湘南キャンパスにて賞状・記念品の贈呈式と招待記念講演が執り行われました。講演題目「クリティカルレイヤーを用いたスパッタAI添加ZnO透明電導薄膜のキャリア輸送制御」



## 卓球部の活躍 香美市から表彰!

1月11日(日)、香美市役所にて第3回香美市体育文化奨励賞表彰式典が執り行われ、本学卓球部(男子・女子)が表彰されました。昨年の「第54回全国国立大学卓球大会」で男女ともに団体戦で優勝、個人戦で、男子はシングルス、ダブルス3位、女子はシングルス、ダブルス優勝の成績・活躍が評価されました。同部を代表し、濱田美穂監督は「このたびは、香美市体育文化奨励賞という大変名誉な賞を頂き、卓球部一同光栄に思っております。今後はこの賞に恥じないようにますます精進し、さらなる飛躍を目指します。今後ともよろしくお祈りいたします」と決意を新たにしました。



## 災害義捐金を 高知県に寄付

12月10日(水)、高知県庁にて[KPAD]から高知県へ災害義捐金の贈呈式が行われました。[KPAD]は「楽しみながら防災力を高めたい」との思いで本学の学生が結成した防災ボランティア団体です。大学祭で募った寄付金や物販の収益金、約5万円を昨年の台風12号・11号で被害を受けた地域支援に役立てほしいと寄付しました。県を代表し、井奥地域福祉部長からいただいた感謝状を手に、学生たちは防災意識の向上へむけて、決意を新たにしていました。



## 本音で制作に ぶつかる設計集成展

2月18日(水)から3日間、渡辺菊真研究室(システム工学群)による「設計集成展2014」が本学で開催され、「本音の建築」をテーマに、設計や製作に自分の本音で向き合うとはどういうことなのかを模索した同研究室学生の約30作品が展示されました。19日(木)には、建築家の魚谷繁礼氏、建築構造設計+塾博士の高橋俊也氏を招いての作品講評会が行われ、学生らは熱心に耳を傾けていました。



## 建築家の 卵に大きな期待!

2月12日(木)、一般社団法人高知県建築士事務所協会主催の第20回建築デザインコンペの審査会が、県建設会館で行われ157点の応募の中から川村昂大くん(システム工学群4年/吉田研究室)が「県知事賞」を、宮川馨平くん(システム工学群4年/同研究室)が「審査委員長賞」と「KUTVテレビ高知社長賞」を受賞し、21日の表彰式に出席しました。

同コンペは、若い世代の感性に期待し、人材育成と建築家としての将来への大きな夢を持つよう開催されています。【川村昂大くんのコメント】卒業設計で取り組んだ小児ホスピスの設計を、模型やパースでプレゼンテーションしました。素晴らしい賞をいただき、大変光栄です。吉田先生のご指導や研究室のメンバーの支えがあってこそこの結果だと実感しています。【宮川馨平くんのコメント】津波避難タワーが建ち、古い木造家屋が密集した地域の町と人の「日常をかえる建築」が、設計テーマです。この度の受賞を大変うれしく思います。アドバイスをくださった吉田先生や多くの先生方、いつも支えてくれた研究室のメンバーに感謝します。

左から/ 吉田教授、川村くん、宮川くん



## 土木学会 優秀講演者賞受賞!

9月10日(水)~12日(金)に渡って、大阪大学豊中キャンパスとホテル阪急エキスポパークで開催された「平成26年度全国大会第69回年次学術講演会」(公益社団法人土木学会主催)で、亀島健太さん(大学院修士課程システム工学コース1年/大内研究室)が優秀講演者賞に選ばれ表彰されました。

土木学会年次学術講演会優秀講演者表彰は、将来の土木界を担う若手の研究者・技術者の論文内容や講演技術の向上と、全国大会の活性化を目的としています。40歳以下の研究者・技術者を対象に土木学会全国大会で論文内容と講演内容の優れた者に与えられます。【受賞題目】「連行空気泡による自己充填コンクリートの実用性向上」 【亀島さんコメント】私は、世界に誇る日本のオリジナルである自己充填コンクリートを一般のコンクリートとして使ってもらうために研究しています。気泡潤滑型の自己充填コンクリートを初めて学会で公表し、多くの方々にも認められ、受賞することができて大変光栄です。大内先生、宮地先生の熱いご指導や共に切磋琢磨した研究室のメンバーに感謝します。受賞を励みに人類の安全と幸せのためにいっそう頑張ります。

左から/ 亀島さん、大内教授



## 夜空に 山本教授の名前が!

山本真行教授(システム工学群)の名前が小惑星に命名されました。Masayuki Yamamoto と名付けられたこの小惑星は、高知県芸西天文学館館長の関勉先生が1991年9月7日に発見された星です。高知県内で長きにわたり天文観測活動の成果を挙げ、国際的にも著名な天文家である関先生から



## 高知化学学会賞を受賞!

武藤京さん(大学院修士課程物質生命システム工学コース2年/西脇研究室)と高瀬和貴くん(環境理工学群4年/小廣研究室)が、第13回高知化学学会賞を受賞し、12月22日(月)に授賞式と受賞記念講演会が行われました。同賞は県内の高校・高専・大学・大学院で学ぶ学生に与えられます。高知化学学会は、県内在住の化学関連分野の研究者、技術者、教育者を会員とし、会員相互の交流、化学の普及と活性化、若い世代の育成や地域産業の発展などに寄与することを目的に幅広く活動しています。この度、武藤さんの研究「新規なジアニオン性シアノニトロメチル化剤の開発」と高瀬くんの研究「MOF ナノファイバーの新規単純合成」が、化学に関する優れた業績として評価されました。【武藤さんのコメント】自分一人の力でなく、ご指導頂いた西脇永敏教授、浅原時泰助教、研究室のみんなのおかげであると感謝しています。この賞を糧にこれからも頑張っていきたいです。【高瀬くんのコメント】研究に対し、先生方に多くのご指導ご鞭撻を賜りました。また、研究室の皆様からも多くの意見を頂き深く感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れず、より一層努力し研究に勉学に励んでいきたいと考えています。



左から/ 西脇教授、武藤さん、高瀬くん、小廣教授

## ゴールであかうしが待っている! 地域を堪能サイクリング

12月7日(日)、本学の「サイクリング同好会」が地元住民と企画・運営サポートをした「土佐さめうら・あかうし BBQ ライド(土佐町 happomess スポーツクラブ主催)」が早明浦ダム湖周辺で開催され、県内外から83名が参加しました。自転車を使った健康な体づくり+地域資源の活用+地域内外の人の交流をはかる一石三鳥の企画です。「サイクリング同好会」を中心にモニターツアーを重ね、安全面を考慮した33キロと75キロの2コースを用意。参加者は各々のペースで

完走をめざし、楽しくサイクリングする中、コース途中の「大川村村のえき」では、暖かいしじゅうの提供が、ゴール後には土佐あかうしパーベキュー交流会で、地域の方々とのふれあい地元食材をたっぷり堪能しました。「サイクリング同好会」の谷井勲くん(システム工学群2年)は、「この経験を活かし、今後、香美市で初のサイクリングイベントを開催したい!」とこれからの活動の抱負を述べました。



## 神池を世界へ発信! パソコン教室

2月8日(日)、本学学生団体「ココイコ!プロジェクト」が香美市物部町神池地区のみなさんの「神池の情報を発信したい」という要望を受け、パソコン教室を開きました。パソコンの電源ONから、クリック、文字入力、画像投稿などを説明。樹齢800年を超えるスギや果実をついばむメジロなど、住民が撮影した神池の日常風景を「ココイコ!プロジェクト」のフェイスブックページに投稿し、アップされた瞬間に大きな拍手と歓声が上がりました。昼休みには、皆さんと一緒に作った料理でほっとひと息つきながら交流を深めました。代表の島田憲吾くん(情報学群1年)は、「ココイコのことをもっと多くの人に知ってもらい、神池を盛り上げていきたい」と意欲にあふれていました。この教室の様子は、NHK ドーガステーションホームページ内、「キズナでチャレンジ」でも紹介される予定です。



## 英語でスピーチ! プレゼンコンテスト

12月6日(土)、「第3回全国学生プレゼンテーションコンテスト」が東京のよみうり大手町ホールで開催されました。

鳥山貴生くん、高樽実可子さん、竹本圭佑くん(3名ともマネジメント学部2年)のグループが、見事に10組のファイナリストに選出されました。

「世界に目を向け思考する」という課題が設定され、3人は与えられたテーマの中から、「ASEAN 諸国へ発表!新しい日本の『お・も・て・な・し』改革」を選択。ASEAN 諸国の各地域の文化や風習、人々の好みを理解したおもてなしとは何かを考え、プレゼンターが日本政府観光局の外国人観光客誘致担当者という設定で、OQT(Omotenashi Qualification Test / おもてなし資格試験)というテストを活用する改革案を英語で提案しました。



### ●3人の喜びのコメント

【竹本圭佑くん】舞台袖まで緊張のしっばなでしたが、いざ舞台上立つと、迷いを吹っ切って、いいパフォーマンスができました。ここまで来られたのも、メンバーの2人と先生方のおかげです。この経験をきっかけに、英語の勉強に力を入れて来年のコンテストに向けて頑張りたいです。

【鳥山貴生くん】今回、出場できたことを光栄に思います。日本全国から多くの学生が集まる中、大きなステージで自分たちの作り上げたプレゼンテーションを披露することができた良い経験になりました。

【高樽実可子さん】出場するにあたり、多くの協力を得ました。プレゼンで使うステッカーなどデザインしていただいた上総穂椰さん(マネジメント学部3年)、原稿をチェックしてくださったスコット先生、最初から最後まで面倒をみてくださった長崎先生。改めて自分が恵まれた環境にいることを実感しました。

左から/竹本くん、鳥山くん、高樽さん



## 磯部副学長が 交通文化賞を受賞

1月22日(木)、磯部雅彦副学長が平成26年度(第58回)交通文化賞を受賞し、太田昭宏国土交通大臣より表彰されました。

同賞は、公的活動、学術研究、芸術活動や国際的な活動を通じ、交通文化の向上に著しく貢献した者へ授与されます。磯部副学長の土木工学の専門知識や防災に関する見識が海岸法の改正や港湾での津波対策の政策方針決定の中心となる役割を果たし、防災・減災対策の推進に貢献したことが評価されました。

左から/磯部副学長、太田昭宏国土交通大臣



## C-REX ロケット ミッションに参加!

11月12日(水)から約3週間にわたり、ノルウェーで実施されたC-REXロケットミッションに柿並義宏助教(システム工学群)と木原大城さん(大学院修士課程知能機械システム工学コース2年/山本研究室)がサポートメンバーとして参加しました。木原さんは、ロケットを用いた実験に携わってきたことや米国での海外インターンシップの実務経験が評価されての参加です。

C-REX(Cusp Region Experiment)とは、地球の南北両極上空のCusp(カusp)と呼ばれる磁力線が細く束ねられた領域のことです。今回の任務は、この領域の中で発生する複雑な現象を理解するために必要な中性大気のイオンの動きに関する不足している知見を集める、ロケットを使った観測実験でした。

発射が成功し、ロケット降下時の高度400~200kmの間で人工雲を生成し、約25分間の観測ができました。



木原さんは、「これまでのロケット実験を通して身につけた力を確かめることができた有意義な現場でした。機材トラブルなどの問題が発生した際の冷静な対応や、現場の状況把握などさらに必要な現場力を確かめ、新たに得ることができました」と手応えを実感しています。そして、卒業する木原さんから後輩へ「新たなことに挑戦するチャンスに恵まれた時、挑戦すれば今の自分を変えることができますが、何もしなければそのままです。後悔のない学生生活を送って下さい」とエールを送りました。

## 卒業制作作品展 2015

2月24日(火)~2月27日(金)の4日間、高知市文化プラザかるぼーとにて、本学の重山研究室・吉田研究室・渡辺研究室と河原デザイン・アート専門学校が合同で卒業制作作品展を開催しました。本学デザイン系研究室を活発にしようと5年前から始まったもので、今年は15作品を展示。JIA(公益社団法人日本建築家協会)四国支部学生卒業設計コンクールとしても位置づけられており、26日(木)に増田信吾氏をお招きし審査会を開催。金賞には、JIA 全国学生卒業設計コンクールへの出展権が与えられました。



【金賞】梅村沙矢さん/システム工学群 4年  
「ずっと、ここで暮らしたい」

【梅村さんコメント】

卒業設計では、「暮らす」ことへの思いをぶつけ、分譲住宅における宅地割り、余地を多く生み出す住宅の配置操作をテーマに設計しました。「敷地の境界と塀」に着目し、敷地に豊かな余白を作り、単調な分譲住宅地ではなく、長く暮らしたくなるような設計が出来たと思います。今までの設計課題とは違い住宅に対する新しい視点を得る経験になり嬉しいです。何度も添削してくださった先生には、大変感謝しています。作品をさらに成長させ、講評をいただいた審査員や先生方の言葉を大切に、全国大会も責任をもって頑張りたいです。

【銀賞】

川村輝太くん/システム工学群4年「プリコラーージュハウス」

【銅賞】

石上智貴くん/システム工学群4年

「日本建築空間体感装置」

〜かみと人をめぐる風景を媒介にした空間変容結晶体〜

大森剛志くん/システム工学群4年

「古今東西の連続園〜双核都市：岡山へ向けた駅空間整備計画〜」

## 高知のために、強力タッグ!

1月21日(水)、地域の発展と産業振興への寄与を目的とする「連携協力協定」を高知銀行と締結しました。

地域経済の活性化や人材育成、大学の研究成果や大学発ベンチャーに関する情報交換と支援を連携していくものです。

森下勝彦高知銀行頭取は「大学の幅広い知識と人材を地域発展につなげる手伝いに尽力したい」、佐久間健人学長は「平成21年度の公立大学法人化をきっかけに、地域の本質的な課題にチャレンジしていこうと『地域連携機構』を立ち上げました。この締結をきっかけに、より一層地域の発展につながることを期待しています」と述べました。



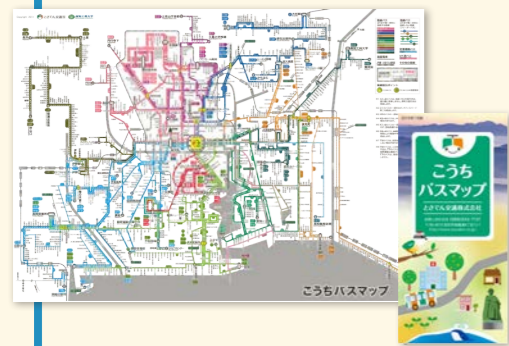
## もっと便利に! こうちバスマップ完成

重山陽一郎教授(システム工学群)が、「とさでん交通」のバス路線図などをデザインし、昨年10月1日から高知県内で利用されています。

京都市、岐阜市など全国の事例の調査を重ね参考にしながら、高知中央地域バスの路線・系統に番号を振り当て、併せて路線図、時刻表、行き先を表示するバスの方向幕、乗換案内サインなど抜本的に見直しました。

「これまでの利用者が馴染んだ『〇〇方面△△行き』の表現を尊重・継続しながら、地元在住民だけでなく、旅行者、土地勘の無い人や外国人に分かりやすく、利用しやすくなることを念頭に、色弱者へ配慮した見やすい色使いなど、高知中央地域のバス全体を俯瞰する系統図も作成しました」と重山教授。

2016年の路線再編に向けて、今後も改訂を重ねていきます。



## 土佐山田 平成日曜市に出店!

1月25日(日)、香美市役所隣の『土佐山田平成日曜市』に、「商品開発部」(顧問/永島正康准教授)と「交流企画団体あそしえ」が出店しました。

商品開発部は、香美市土佐山田町のパン屋「FinBec (ファンベック)」とコラボレーション。高知名物「ほうしパン」をもとに、パンの中にクリームチーズとゆずピールを入れ、ミミの部分にゆずけんぴを入れた高知の特産物を使用した「シャポー・ド・カンパーニュ」を開発。

「口いっぱい高知の味が広がります」と久米井紀則くん(マネジメント学部3年)。開店からわずか30分で30個が完売。また、花粉症の症状改善効果や若返り効果、血圧の正常効果にききめがあるレンコンを使ったクリーム風味の「れんこんスープ」も販売。こちらも30食を完売し、「おいしかったから、また買いに来たよ!」というお客さんもあられ、大変好評でした。

「交流企画団体あそしえ」はあったかいカレーうどんで地域と交流を深めたいと、この月2回目の出店でした。代表の島崎尚志くん(システム工学群2年)は「目標数を大幅に上回る47食を販売できてうれしいです。今後も出店予定です。新しいメニューにご期待ください!」と述べました。



## 自分で考えよう!自分でも考えよう!

先生自身が日々感じていることを、ちょっとイイセンスらしく語ってもらいました!

今回言い過ぎる人

いわしたかつし

岩下 克 先生



色々なものが発達すると人間は考えなくなる。良い例がカーナビである。カーナビのおかげで道を覚えなくなった。同じようなことが教育の現場でも起きている。インターネットの発達により、わからないことはネットで検索すれば出てくる。また、スマートフォンがあればどこでも検索できるので覚える必要はない。最近は細かいことまで検索できるのでレポートなどは答えが直接出てくる。ほとんど考える必要なくレポートができてしまう。このような学生が増えているのに危機感を覚える。

生まれた時からインターネットの使える環境で育った世代を「デジタルネイティブ」と呼ぶらしい。そのような世代の学生は我々にはない新しい発想ができると思う。しかし、考えることをしない状態では単に使われているにすぎず新しい発想など出てくるはずがない。

よく学生に言っていることは、研究室配属前は授業が中心で知識を取り込むことが主体的であった。しかし、卒業研究では今まで取り入れた知識を活用することが重要になってくる。すなわち、研究目標があり、それに向けてどのように進めるかを自分で考え、それを実現する。当然、自分の予想と異なる結果が出てくる。それに対して再度対策を考えて解決していく。このようなことを繰り返し進めるのが卒業研究である。社会に出て仕事を進める時も同様の手順をする。

物事をうまく進めるにはその知識とそれをまとめ考えることが必要である。何かを調べたその内容を理解するとさらには疑問が出てくるはずである。その疑問を解決するためにさらに調査をする。また、それらの関係をまとめるなどの自分で考えることを怠ることなく続けるとさらに価値が生まれてくる。デジタルネイティブ世代の学生ならネットをうまく活用して我々の想像できない新しい発想ができると思う。ネットが不足した知識を補ってくれる。この知識を活用するには考えることが重要になる。考える習慣を身につけるには時間が必要である。卒業するまでにちゃんと考えることのできる学生として育ち卒業してほしい。

まずは自分で考えてみる!



2代目イイセンスジャッジ  
高知工科大学 入試・広報部 土江

学生の健康を守る！  
おふくろの味

県外出身者が7割を占めるKUT。多くの学生が下宿や寮(ドミトリーなど)で一人暮らしをしています。今回は、みんなの食と健康の意識をアンケート調査しました。

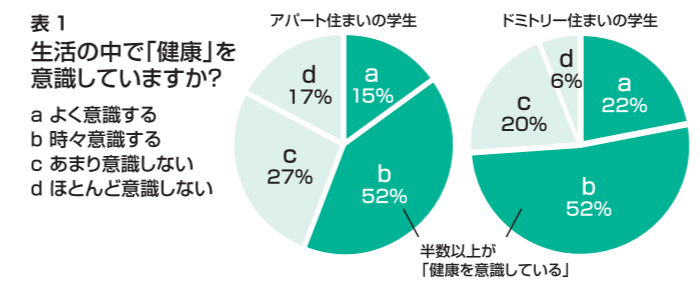


五代目 学生特派員  
左から/  
上総 穂椰 (マネジメント学部3年)  
塩見 侑司 (情報学群3年)  
武市 清嵩 (情報学群3年)

KUTの学生の「健康」意識は？

KUTの学生に自分の健康や食生活への意識についてアンケート調査を行い、124名から回答がありました。ここでは、特に自己管理が求められるアパートやドミトリーで一人暮らしをする学生それぞれの実態に焦点をあてました(表1)。どちらでも、半数の人が「健康」を意識し、「適度な運動」や「野菜を多くとる」、「発酵食品を食べる」、「意識して和食を選ぶ」、「カップめんを控える」などを心がけ食生活を中心に工夫

▶ KUTひとり暮らしの学生へアンケート！



しているようです。そして、健康を意識すると答えた人は三食をきちんと食べている割合も高いということがわかりました。

**生活リズムは朝食から……だけ……。**

朝食についてのアンケート結果(表2)を見ると、アパート住まいの学生の約8割が朝食を抜くことがあると答えたことに対して、ドミトリー生はその割合が4割にとどまるという結果でした。これは、ドミトリー近くのO-bagの存在が大きいと思われれます。O-bagとは、「安心・安全・健康」をコンセプトに本学の学生が2001年に起業したお店で、「おふくろの味」を提供したいとの思いがネーミングの由来です。講義のある平日は朝7時〜8時半、土日・祝日や長期休暇も営業しており、350円で朝食を食べることが出来ます。学生支援部・吉田さんは、「ドミトリー生235名のうち、約150名がO-bagを利用しています。O-bagでは学生の健康のため、清涼飲料水を廃止して野菜ジュースや牛乳を提供したり、色とりどりの野菜が食べられるように工夫しています。朝食利用の習慣が身につくと、退寮しても朝食をとる習慣がしっかりと継続できているようです」とおっしゃいます。O-bagが、ドミトリー生の食習慣を支える心強い存在となっています！



学生支援部 吉田基さん

学業のためにも、賢く自炊！

親元を離れての一人暮らしで、栄養バランスのとれた食生活の維持を難しく感じる人もいるでしょう。本学周辺には、手軽に利用できるコンビニやファーストフード店がありませんが、視点を変えると、高知のおいしい食材を使って自炊力をつけるチャンスです！学業に思いっきり励むためにも、学生食堂やO-bagを上手に活用しながら、自立した食生活を意識してみましよう！

O-bagの朝ごはんは和食バージョン。パイキング形式で、自分でバランスを取りながら選べます。この写真のプレートは、ミニサラサラサラダ、10品目サラダ、ミニ三角春巻き、五目豆煮、筑前煮、低塩蜂蜜梅干など野菜が豊富なチョイスです。



お味噌汁は、具材がいろいろ3種類から選べます！

毎日メニューが変わり、和食、洋食メニューどちらも選べます。ドミトリー生以外の方も食券を購入して食べられます。年間パスなどで利用できるより便利になるのでは！

ジ ッ カ ン n o t e

- 武市** o-bagの由来が興味深かったです！僕も栄養バランスを考え、食生活を改善していきたいです。
- 塩見** 自分の生活習慣を見直す良い機会となりました。皆さんも食生活を振り返ってみましよう！！
- 上総** 朝食をとらない学生が多くてびっくりしました！レポートを見返して自分が何を食べているかを認識し、健康管理を意識してほしいです！

磯部雅彦新学長が就任します。

2008年の学長就任以来、7年間にわたり、本学の発展に多大な貢献をしてきた佐久間健人学長の任期満了に伴い、4月より磯部雅彦副学長が新学長に就任します。今後は磯部新学長のリーダーシップのもと、さらに質の高い研究、人材の育成、社会への貢献を進めていきます。

新学長就任メッセージ

2013年に副学長として本学に赴任し、今年4月より4代目の学長に就任することとなりました。本学は「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学をめざす」という高い志のもと、さまざまな先進的な取り組みを実現し、はっきりとした違いのある大学として、小規模ながら存在感を發揮してきました。この2年間を振り返り、本学はまさに「日本にない大学」であるということを強く実感しています。



何より「世界一流の研究と教育ができる先生が集まっていること」が本学の特徴です。今後は最先端の装置や設備をさらに充実させることで一流の研究環境を整え、高度な専門性を發揮した研究成果によって世界の未来に貢献していきたいと思っています。そして、常に新しい文化を創造し、発信できる大学として、国内外の多様な人々が集まるキャンパスづくりにも力を入れていきたいところです。

東京で生まれ育った私にとって、すばらしい自然環境に恵まれた高知県での生活は新鮮そのもの。豊かな風土によって育まれた食材は世界一流と言えるでしょう。その一方で、人口減による経済規模の縮小や過疎化の進行など、全国に先駆けた数々の課題に直面する課題先進県とも言われています。本学の二本柱である工学と経済・マネジメントは、いずれも実学の代表選手です。社会に直接的に役立つ学問を有する地域の大学として、世界に誇る地域資源を最大限に生かしながら、課題解決に寄与していきたいと考えています。

これからも「時代の変化に合わせて、常に進化し続ける大学」という本学の強みを受け継ぎ、世界に名の轟く高知工科大学の実現に向けて邁進していきます。

磯部 雅彦 学長 Masahiko Isobe

1975年東京大学工学部土木工学科卒業、1981年工学博士。同大学副学長を経て、2013年に高知工科大学副学長就任。専門は海岸工学。近い将来起こると言われる南海地震の津波対策にも高知県や国のレベルで中心的に活躍する。プライベートでも海を眺めることが好きで、日本中ほぼすべての海岸に足を運んできた。海に近く、食材豊富な高知での生活をとても気に入っている。

めざすのは、  
世界一流の大学。





# がんばらっちょね!

## 工科大 16

Machi no KUT Ouen-Dan Report

今回の  
インタビュー

学生支援課

### 高垣靖子



今回のインタビューは、高知工科大学後援会の岡崎純男会長です。南国市市議会議員として地域のために奮闘し、地域の方々に信頼されています。週に2日、朝の卓球をお仲間と真剣に楽しむ元気で心強い60代。後援会の立場から工科大生によせる期待などをお伺いしました。

— 学生と直接かかわることはございますか。

残念なことに普段は学生と直接的な関わりはあまりないねえ。よさこい祭りの応援に行くくらいやきね。でも、卒業記念行事「えん」の委員になっている学生とは企画の話をしゅう。うちの地域の夏祭りには吹奏楽部やジャグリング部の学生が来てくれたこともあったき。

— 本学が岡崎会長に後援会のお立場でお世話になりだして10年以上になるでしょうか？

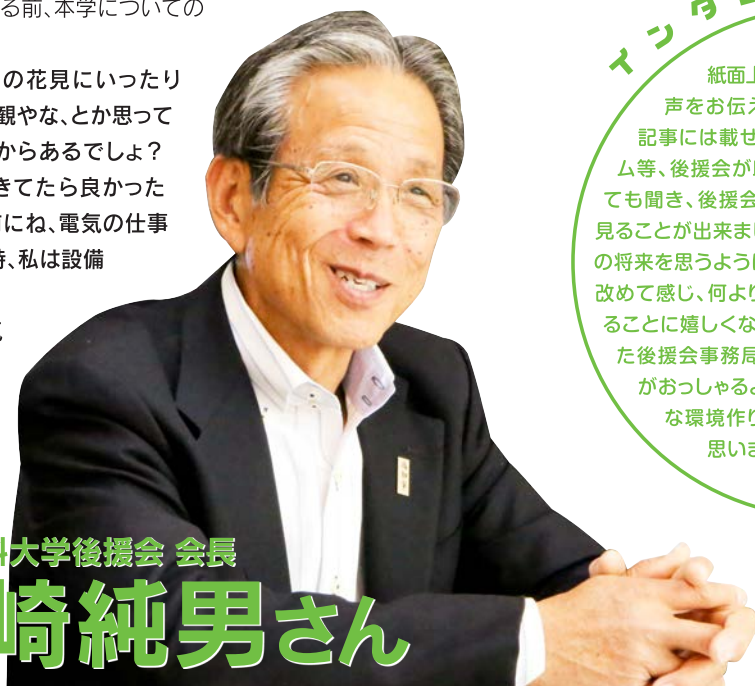
息子が工科大に入学して1年生の時からやき、もう10年ちょっと越えたらうか。息子が高校の時も、PTA副会長をやっている、その情報が大学に入ったがやろうかね。そしたら大学でも後援会の役員をすることになってねえ。

— 息子さんが本学に入学する前、本学についてのイメージはどうでしたか？

そうやねえ。鏡野公園の桜の花見にいったりして、大学の建物も、綺麗な外観やな、とか思っていた。県外には工業大学が昔からあるでしょ？高知も工科大がもっと早くできてたら良かったのに。実は、息子が入学する前にね、電気の仕事で工科大と関わったがよ。当時、私は設備関係の仕事をしよって、テニスコートのクラブハウスの電気設備で講堂から地下を電線引っ張ってね。

応援団員 高知工科大学後援会 会長

## 16 岡崎純男さん



後援会は高知県協働の森事業に支出し、応援しています。本学学生と教職員13名が間伐体験に参加し、慣れないチェーンソーで15本ほど伐採しました！

— それで息子さんにも本学を勧めていただいたのでしょうか。

ふふ。それは本人の意志です。

— 工科大生に、どのように成長してほしいと思われていますか？

若い人に自分の意見を持って、それを相手にきちつと伝えることができる社会人になってほしいがよ。会社へ入って10年、20年して中堅、幹部になって、後輩へつないでいてほしいき。そんな思いもあり、課外活動支援は当初から後援会で支援しゅう。例えば、ナイター照明も、後から追加できるようにして最初の2基を建てたしね。課外活動を通じてコミュニケーションを養ってほしいきね。他にも、鏡野公園から大学の正面がみえるバス停の東屋も設置したし、図書館の話題本も後援会からよね。

— 今後の後援会としての役割については、どうお考えになりますか？

学生が社会に出たとき、自分から進んでチャレンジしていくような学生を送り出していきたいね。同窓会じゃないけど、後援会も支部を立ち上げて支部総会をしたりしたらどうやろうか、そんなことも考えたり。卒業生の活躍はこじやんと嬉しいもの。国内消費が落ちて海外へも仕事で出かけて行かないかん場合もあるろう。後援会として課外活動も就職支援もしゅうけど、英語教育とコミュニケーション能力、そういう面も支援していけたらなあ。変化のスピードが早い世の中で、臨機応変に対応できるタフな卒業生になってもらいたいのお。そのための支援ならいくらでもしたいきよ。

# 卒業生の活躍は こじやんとウレシイ

インタビューを終えて

紙面上で、岡崎会長のシブイ声をお伝えできないのが残念です。記事には載せておりませんが、卒業アルバム等、後援会が助成してきた様々なものについても聞き、後援会が大学を支えてきた経緯を垣間見ることが出来ました。岡崎会長が、愛する息子さんの将来を思うように学生を見守ってくださっていること改めて感じ、何より学生に希望を持ってくださっていることに嬉しくなりました。私も前任者が築いてきた後援会事務局をしっかり受け継ぎ、岡崎会長がおっしゃるように、タフな学生が育つような環境作りを具体化していきたいと思いました。

